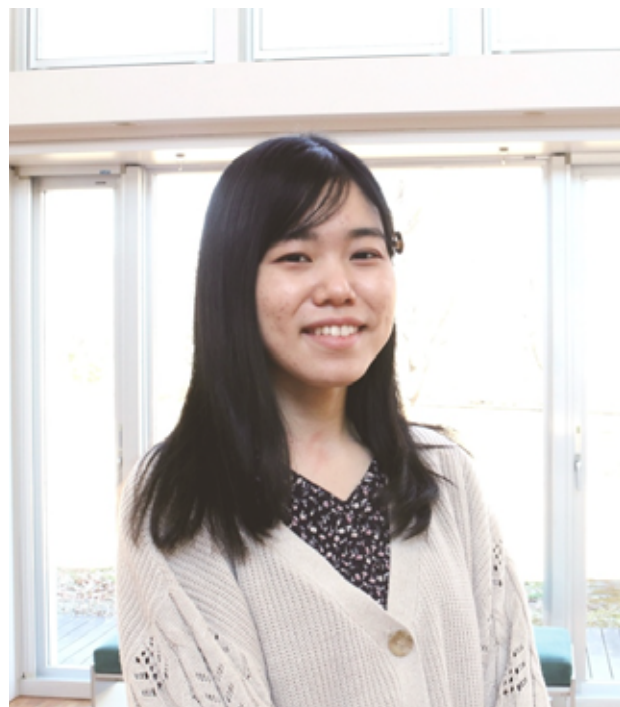


みの〜れとの出会いは大学の図書館



筑波大学4年生／チームBIRDの森

とまつりはな
戸祭陽菜さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.192

賑やかだったセミの声が少しずつ減って、草むらの虫たちの音楽会が始まりました。コオロギやスズムシは、5月頃に卵から孵化して8月の中頃から成虫になって、夕方以降に美しい声で鳴くようになるそうです。今回は筑波大学4年生で、卒業論文の研究をきっかけにみの〜れに関わり、チームBIRDの森メンバーとして活動する石岡市にお住まいの戸祭陽菜さんを紹介します。

来る者拒まず の風土が素敵

高校で弦楽部、大学で管弦楽団に所属し、定期演奏会や文化祭で演奏している戸祭さん。卒業論文のために大学の図書館で手に取った「文化がみの〜れ物語」を読み、隣の市でこんなに凄いことをやっていたんだということを知り驚いたそうです。

みの〜れに飛び込みで話を聞きに来たとき、チームBIRDの森に興味を持ち、研究のために会議に参加しているうちに正式メンバーとなりました。他チームの会議やイベントにも研究のため参加。「想像以上に住民の皆さんが主体的に動いていて、これまで大学で勉強してきた事例とは全く違うと感じました。みの〜れは計画を立てるところから住民が関わり、理念どおりに運営されている

ことに驚きました。このあたりを卒業論文で書きたいです」と話します。

6月と8月に開催されたチームBIRDの森主宰のイベントに参加。BIRDの生の親でアートディレクターの大嶽一省さんが「はみだし たっていいんだよ」と語りかけると、子どもたちがイキイキと自由に色を塗り出しました。個性あふれるぬり絵が次々とでき上がり、「子どもたちが嬉しそうに作品を見せてくれました。とても感慨深かったです」と戸祭さん。

みの〜れに関わる人たちが、市内か市外かなど全く気にかけることなく受け入れてくれたことが嬉しかった。そうで、「来る者は拒まず」という風土が素晴らしいと思います。初めてみの〜れを訪れたときも、ホワイエで展示している方に話を聞いていたら、みの〜れ職員が『よかったですらみの〜れのことを詳

しく紹介しようか」と声をかけてくださったんです。もしあのとき声をかけられていなかったら、これほどまでにみの〜れに関わらなかつたかも」と振り返りました。

来年4月から社会人になる戸祭さん。就職後は「今までのように現場に足を運んで会議に参加することは難しくても、オンラインで会議に参加したいと思っています」。みの〜れに関わるようになって、一人よりもグループで仕事をする方が自分に合っていると感じることが多かったです。「みの〜れが私にとって大切な場所になりました。だからこそ、卒業論文でも魅力を伝えられるようにしっかり書きたいと思います」と話してくれました。

大学生の参画が増えているみの〜れ。今後も若い世代にとって大切だと思ってもらえる場でありたいですね。

(藤田佐知子)